

平成 27 年度第 2 回 こどもチーム会議 (H27.9.2)

報告

前回チーム会議にて確認された年間検討テーマについて、具体的な話し合いを行いました。

1. 各機関の途切れない支援のための取り組み現状

現状、各機関でおこなっている途切れない支援のための取り組みを確認し、今後必要な仕組み等を検討。

○玉城わかば学園 (コーディネーター)

- ・在校生連携会議、進路懇談会・移行支援会議：顔つなぎ、卒業後の方向性、卒業後への引継ぎ等。
- ・巡回相談：地域の小中学校から依頼があれば授業等を訪問し、一緒に考える。 等々

○こども家庭相談センター (三重発達障がい支援システムアドバイザー)

- ・市役所内発達支援連絡会：関係課の連携会議。情報共有、連携、個別の関わり方等の共有。
- ・こども発達連絡会：健康課と定期的に情報共有や、巡回同行等の調整。
- ・保育要録 (5 歳児全員・小学校へ)、個別の教育支援計画、CLM等にて引継ぎを図っている。 等々

○おおぞら児童園

- ・小学校見学同行、必要時に園の様子を情報提供、個別の教育支援計画 等で引継ぎを図っている。

○健康課

- ・おめでとうコール、おっぱい相談会などの今年度からの新事業もあり。
- ・ほぼ全員に赤ちゃん訪問、4 か月や 10 か月健診等でも母の不安聞き取り、要観察はフォロー。
- ・健康診査 (1 歳半、3 歳)、事後教室を開催。 等々

2. パーソナルカルテ

現状：・学校で説明会を実施、学校に記入支援を依頼。各立場・各機関から周知研修等を行っている状況。

- ・保護者としては、記入はしたが使い方が分からない等、様々な様子がある。

個別の教育支援計画：

個別の教育支援計画は教育や学校側のものであり、パーソナルカルテは行政・保護者側のものという違いがある為に、活用のされにくさ等が出やすいのではないかと。

⇒個別の教育支援計画の検証が、パーソナルカルテの課題解決にもつながる可能性がある。

こども総合支援室との一体的検討の必要性：

パーソナルカルテの浸透には、学校側にとってもメリットが分かり易い流れや、総合支援室の中で取り入れて支援していく等の流れが必要である。そのためにも、総合支援室の必要性と一体的に考えていく必要がある。

3. こども総合支援室

視察：こどもチームで、こども総合支援室の理解を深めるため先進地視察を実施する予定。

4. 市民との意見交換会

趣旨：パーソナルカルテを实际使った方々の意見を聞かせて頂き改善を図っていくために、またこども総合支援室との一体的な検討を行っていくために、市民との意見交換会を開催予定。

対象者：こども総合支援室についてアンケート実施し、市長に要望等をした方々との意見交換を予定。